

平成29年度 「市長と語る市政懇談会」記録



佐久島地区

平成29年9月27日（水） 午後2時30分から

佐久島開発総合センター〔集会室〕

市政懇談会次第

- 1 開会
- 2 市政運営について（市長）
- 3 地区とりまとめ意見・質問等の回答
- 4 自由意見交換
- 5 閉会

出席者等

懇談会の地区代表者	佐久島小校区：松本建吉代表町内会長
地区関係市議会議員	前田修議員、松井晋一郎議員、本郷照代議員、磯部雅弘議員、藤井基夫議員
市関係者	中村市長、尾崎教育長、長島企画部長、山崎地域振興部次長、金原産業部長、加藤建設部次長、太田消防長、内藤佐久島振興課長 事務局：細田秘書課長、岩瀬秘書課長補佐ほか2名
出席者数	市民20人、地区関係市議会議員5人、市関係者12人、報道関係者2人
事前意見・質問等	整理区分12件 内訳：意見5、要望7
自由意見等	整理区分8件 内訳：意見3、質問3、要望2

平成29年度 「市長と語る市政懇談会」(佐久島地区)

○細田秘書課長

皆様、こんにちは。私は、この懇談会の事務局を務めます秘書課長の細田でございます。よろしくお願いいたします。

なお、本日は出席者がクールビズの推奨によりノーネクタイの軽装でありますこと、また特産品やイベントのPRポロシャツを着用しておりますことをご了承ください。

それでは、お時間になりましたので、ただいまから「市長と語る市政懇談会」佐久島地区を開会いたします。

初めに、本日の出席者をご紹介します。

この懇談会の開催に当たり、多大なる協力を賜りました佐久島小校区代表町内会長の松本建吉様、佐久島東町内会長の鈴木和男様でございます。

また、市議会からは、前田修議員、松井晋一郎議員、本郷照代議員、磯部雅弘議員、藤井基夫議員の皆様にご出席をいただいております。

そして、市からは、中村市長を始め、尾崎教育長、そして関係部局の部長、次長が出席しております。どうぞよろしくお願いいたします。

続きまして、本日の日程をご案内いたします。

この後、15分程度のお時間で、市長が市政運営についてお話を申し上げます。その後、佐久島地区から事前にお伝えいただきましたご意見やご質問などに対して、市から回答をさせていただきます。

また、これら地区のとりまとめのご意見等とは別に、参加者の皆様から広く意見等をお聞きする自由意見交換の時間も設けておりますので、まちづくりに対するご提案やご意見、その他、地域の困り事や関心事などがございましたら、ご発言をいただきたいと思っております。皆様との懇談のお時間は午後4時15分までとさせていただきます、その後、若干の事務連絡を申し上げて閉会いたしたいと思っておりますので、ご協力をお願いいたします。

なお、記録用として、懇談会の音声録音と写真撮影をさせていただきます、懇談会記録は準備でき次第、公開させていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、市長、よろしくお願いいたします。

○中村市長

皆さん、こんにちは。市長の中村健でございます。

今日は市政懇談会にご出席をいただきまして、ありがとうございます。また、日ごろは市政全般にわたりましてご理解とご協力をいただきまして、ありがとうございます。立っていますと目線がずれてしまうので、座って話をさせていただきます。

西尾市では、2年に一度、市政懇談会を行っておりまして、今年はその年になります。中学校区ごとに行わせていただいているのですけれども、それぞれの地域の皆様方のお声ですとかご要望とかをお聞きして、それに対して市の考えをお伝えするというのが中心になるのですけれども、ただ内容のやりとりだけであれば、わざわざこうやって集まる必要もないと思っております、せっかくの機会ですので、考えだけではなくて、私たちの感情的な部分やまちづくりにかける思いの部分など、そういったところまでできる

限り感じていただけるようにこちらとしてもお伝えしたいというように思っていますので、限られた時間ではありますけれども、充実した懇談会になるように市としても頑張りたいと思いますので、よろしく願いいたします。

それと、所信表明についてお話しさせていただく前に、佐久島に関するタイムリーな話題ということで、何点か紹介させていただきたいと思います。

まず1点目なのですが、7月31日に、平成29年度の自然公園関係功労者ということで、本日もご出席いただいておりますが、筒井一雄様が環境大臣表彰を受賞されました。おめでとうございます。

そして、2点目なのですが、旧海の歴史館というところがさかなセンターのところにあるのですが、10月1日に、リニューアルをしまして、佐久島ナビステーションという形でオープンいたします。佐久島と西尾市の観光をPRするコーナーを設けるといことで、この施設からもたくさんの佐久島の魅力を発信していきたいというように考えていますので、ご承知いただければと思います。

そして、3点目なのですが、10月7日になります。「夜空と交差する森の映画祭2017」といことで、こちらの映画祭が佐久島で開催されます。島内3か所に屋外上映会場を設営して、午後6時30分から8日の午前5時までということになっておりますので、島民の方々におかれましても、お時間に都合がつけば参加いただければと思います。

そして、4点目なのですが、10月15日、島を美しくつくる会の皆様の主催で、佐久島農業体験ツアーが行われます。新たな佐久島ブランドとして目指しておられますサツマイモの収穫のほか、つるかごづくりなど、親子で楽しめる内容となっております、こちらについても、市としましてしっかりとPRをしてまいりたいというように思っているところであります。

続いて、私自身の市政に対する考え方のお話になるのですが、自分自身が市長として就任させていただいたのが7月5日になりますので、3か月弱になります。7月14日に議会の臨時会が行われまして、そこで所信表明を述べさせていただきました。この所信表明というものは、自分自身の市長として4年間、こういった形で市政運営をしていきたいという大きな方向性を示すものでありまして、具体的にその中で幾つか項目があるのですが、自分といたしまして3本柱を設けてあります。1点目が、市民主役のまちづくりというところで、2点目が、少子高齢化と人口減少への対応、そして3点目が、厳しい財政状況を乗り越えるための徹底した行財政改革といことで、多少総論的な話にはなるのですが、4年間こういった考え方を重視しながら市政運営をしていきたいといことで、もう少し詳しくお話をさせていただきたいと思います。

まず1点目の市民主役のまちづくりといことで、正直これは、どこのまちでも言うのですが、1つには仕組みとして行政がしっかり情報公開して、市民の皆さんがそれに対して意見ですとか提案とかしやすいような仕組みをつくりたいというのが1つ、もう1つは、広報の部分をしっかりやりたいというようにも考えています。

よく行政の発信する情報といくと、広報にしおとか、あとは市のホームページなどですが、例えばこちら側が伝えていっても、それが読む側からしてしっかりと伝わりやすいかどうかといくと、また少しそこで食い違いがあると思いますし、情報を発信する側

として、読み手の皆さんとか情報を見る側の皆さんに伝わりやすいような情報発信を心がけていきたいというように考えています。

それと、あとはこういった形の顔を合わせてのコミュニケーションというのは、自分自身としても大事にさせていただきたいと思っていますし、何かこう壁をつくって形式的なやりとりをしても、なかなか行政側と市民の皆さん側とでいい信頼関係は築けないと思っていますので、できる限りこちらとしてもこう正直な気持ちを打ち明ける中でやりとりをさせていただきたいというように思っておりまして、そうした趣旨からも今回の市政懇談会を開催させていただいているというところでもあります。

それと、西尾市と一色、吉良、幡豆が合併して7年目になります。6年目というよりは、多分6年しかという形なのかなと思っていますし、なかなか1つのまちとしての一体感が本当に出るまでには、30年、40年とか、半世紀ぐらいかかるのかなというように思っているのですが、その中で、1つの西尾市というまちなので、当然そういった一体感を持ってまちづくりを進めていきたいという思いがある反面、やはり佐久島なら佐久島、一色なら一色、吉良なら吉良という、その特色といいますか、そのまち独自の文化などがあるわけじゃないですか。それを、合併したから西尾市に全部合わせてくれというよりは、そういったそれぞれのまちの特色というか、そういうものを生かしながら、だけれども全体として西尾市としてまとめていけるようなまちづくりをしたいというように考えているところでありまして、そのためには、やはりそれぞれの地域の皆様方がしっかりとお声を届けていただくことが大事ですし、私たちとしても、それをしっかりと受けとめることが大事なのかなというように思っているところでもあります。

あと、その市民主役というところでもう1点自分がお伝えしたかったところが、この佐久島においては、おそらく島民の方々のつながりというのは、すごく濃いというか、密なのだと思います。だから、隣の家の人々が今どういう状況でなどというのは、比較的よくわかる環境なのだと思うのですが、西尾市全体で、特に市街地のほうだと、やはりご近所づき合い自体もなかったり、そういった意味で、よくいう地域のコミュニティの力が落ちているというのは、すごく感じています。町内会活動なども、町内会長の負担が大きい中でお願いしているわけではありますが、地域の行事とか祭りなども含めて、担い手がなかなかいないという状況がありますし、そうした中で、では、10年後、20年後、地域は大丈夫なのかということを見ると、その地域の力を維持するというか、持ち上げるというか、そのための支援はさせていただきたいと思っています。

特に若い年代がそういった町内や地域の活動などに関心が出るようにするのも私たちの仕事であると思っていますし、あとは、自発的にそういったところに参加できるような形の知恵というのは出していないといけないのかなと思っていますし、これをやれば必ず大丈夫だという特効薬があるわけではないのですが、そうした問題意識はしっかり持ちながら、まちづくりに励んでいきたいというように考えているところでもあります。1点目が、そうした対応になります。

2点目が、少子高齢化と人口減少への対応ということになるのですが、この西尾市においては、市全体ではまだ若干人口が増えている、ほぼ横ばいの状況で、佐久島においては、正直、人口の減少傾向がかなりあって、今後どうしていくかということが結構深

刻な問題なのだと認識していますが、やはり日本全体で人口減少というのは一番大きな課題でありまして、税収が落ち込むとか、物が売れにくくなるとか、現役世代の社会保障の負担が増えるとか、人口減少の悪影響のもたらす影響というのはすごく大きくて、では、それをどう歯どめをかけていくかということが目の前の課題になるわけでありまして、政治の世界では、よく、ここ2年、3年、地方創生、地方創生と、国会などを中心として言うのですけれども、この地方創生の真髄というか、一番言いたいことは、横並びのまちづくりをするのではなくて、それぞれのまちにしかない魅力を磨き上げていく中で、たくさんそのまちに住んでもらうことで人口を増やしていきましようということが、一番醍醐味としてあるのだと僕は考えています。

では、その地方創生という観点からどういったことをやっていくかというときに、考え方の観点として、住みたいまちというところと、働くことのできるまちというところと、訪れたいまちという観点に分けられるのかなというように考えておりまして、1つ目の住みたいまちということについては、やはり一番お金を使って、一番税金も払っていただくらう、いわゆる子育て世代と呼ばれるところの、特に30代、40代の人たちの人口をいかに増やすかというところが大事になるかと思えます。住んでもらった人たちが子どもを産みやすい環境を整えることも1つだし、あとは、ほかのまちから西尾に住もうと思ってくれる人を増やすことも大事だと思っています。こちらの点については、なかなか子どもに恵まれないご家庭に対して治療の助成をすとか、あと子どもが産まれても、共働きの家庭などですと、子どもが病気の時になかなか預ける場所がない、そういうときに病児保育というものを充実させるとか、1個1個きめ細かいサービスが大事なかなと思っていて、そういったところを1つ1つ丁寧にやっていきたいというように考えているのが中心となります。

あと、佐久島においては直接余り関係がないのかもしれませんが、西尾市ということでは言わせていただくと、特に公共交通機関のバスとか、その辺をどうするかというのがすごく大きな課題でありまして、特に僕が住んでいる三和というところもそうですし、一色、吉良、幡豆などでもそういった声が大きいです。高齢化が進んでいって、世間的なニュースなどでは、年をとったら免許を返納しろというような風潮が若干あるのですけれども、東京などではそういったところで免許を返納してもまだまだ生活に困らないかもしれないですけれども、この西尾において免許を返納してどうなんだという、やはり日常の暮らしに困る方もたくさんいらっしゃると思います。何か病気とかけがをされた場合にお医者さんに行くとか、日用品の買い物に行くとかいうところは、ある程度、公の公共交通機関としてそこは最低限保証しないと、本当に家にこもってしまって孤独死みたいなことにもなりかねないですし、そこはしっかり力を入れてやっていきたいというように考えているところであります。

住みたいまちについては、そういった内容がメインになるのですが、続いて、働くことのできるまちというところについては、今の西尾の産業の強さを支援していくことと、あとは雇用の場をどうやって生み出していくかというところだと思っています。この西尾市については、西三河エリアの一角なので、1つには、自動車関連産業を中心とするものづくりが強いというイメージを持っている方はたくさんいらっしゃると思いますし、

そうした中で企業がしっかりと稼げるような、投資ができるような環境を整えて補助金を出すと、そういったことも大事なのかなというように考えているのですけれども、その一方で、西尾市独自の内容といたしますと、やはり一次産業が盛んだというのが特徴だと思います。農業しかりだし漁業しかりです。

農業についても、今、担い手不足だとか、海外とのマーケットのことで、どう競争力を保っていくかなどということもあるわけですが、今、特に深刻だと感じるのは、やはり漁業でありまして、本日もご要望をいただいているのですけれども、アサリなどについては壊滅的な状況にあって、これをどう復活させるかというところの中で、これをやれば大丈夫だという原因がまだわかっていない状況でありますけれども、このまま手をこまねいていいかという、決してそうではなくて、そこは漁協の皆さんですとか地域の皆さんもそうですけれども、あとは愛知県などとも連携しながら、どういう対策が打てるかというところを、1個1個打っていく中で解決を図っていくしかないかなと思いますが、本当にみんな廃業してしまった後に、では、もう1回アサリをやりましょうと言っても、何ともならない話なので、そこはしっかり守っていきたいというように考えているところであります。

あと、訪れたいまちというところでは、観光に尽きるのかなというように考えています。合併してこの6年間、観光には力を入れてまいりました。佐久島についても、渡船の利用客などを見ると、ずっと増加傾向にあって、経営的にも渡船が黒字になって落ち着いている状況であったりとか、西尾市として外から観光客を呼び込むときに、佐久島というのがすごく大きな魅力になっているのは間違いないのです。それを生かしていく中で、佐久島だけではなくて、ほかの西尾市のところにも来てほしいということをやっていくことも大事だし、あとはその一方で、観光客という、どうしても観光客のマナーと地元の方々の生活をどう両立させるかという点がすごく大事なかなと思っております。今回もそういったところでご意見をいただいているのですけれども、やはり楽しく過ごしてもらおう反面で、そこに暮らす人の生活もしっかりやって、お互いに楽しくやれるようなものが一番いいよねというところは、粘り強く働きかけをしていくしかないかなと思っておりますが、やはり日間賀島や篠島のような開発され過ぎていないところが佐久島の魅力だと思いますし、そうしたところに魅力を感じたときに、名古屋とか、そういったところからたくさんの方が来ていると思いますので、その魅力を失うことなく、またしっかりPRしていきたいというように思っておりますので、私としてもご協力をまた改めてお願いしたいというように思っているところであります。2つ目の

3つ目が、厳しい財政状況を乗り越えるための徹底した行財政改革ということで、難しい表現になってしまっているのですけれども、今の西尾市が全体で550億円ぐらいの財布を持っています。合併をした中で、国から今まで特別にもらえていた分の交付税のお金があるのですけれども、今年度からそれが少しずつ減らされていくことになりまして、5年後には、大体今よりも二十数億円もらえるお金が減ってしまうのです。そうすると、550億円の中の二十数億円という、大体全体の5%ぐらいなのですけれども、その5%をどうやりくりするのかというのが、実はすごく厳しい状況であって、1つには、

しっかり稼ぐことにももっと力をいれようということで、ここ二、三年、ニュースとかでもよく取り上げられていますふるさと納税なども、西尾市はたくさん、物産とか、そういったものがあるので、うまく西尾のまちづくりをPRしながら寄附をいただくという形で歳入というものを増やしたいというのも考えていますし、あと企業誘致なども、今までも積極的にやっているのですけれども、さらにやっていく中でしっかり税収を確保したいとか、そういった部分で、1つには入るお金を増やすということと、あとは出ていくお金を切り詰めるということもやはりしなければならぬと思っていて、正直いろいろ、何かをつくってくださいなどというご要望もあって、全てを実現したいという気持ちには思うのですが、借金を重ねてそういったものをつくってしまうと、結局これから産まれてくる子どもたちにつけを回すだけであって、そこはやはり、今ある身の丈に合った形でやっていくしかないのかなというように思っていて、役所の中でも行財政改革というものを進めるための委員会があったり、今、そこをてこ入れしている段階で、どうするともう少し実効的な計画が出せるかというところを考えてもらっているところでありますし、場合によっては、そういった市から出しているお金などを部分的にはカットさせていただくということもあるかもしれませんが、四角四面に形式的にそういった場合でも言うのではなくて、しっかりと市の状況を説明させていただいて、ご理解いただけるような丁寧な形で説明をしていきたいというように思っているところであります。

そうした中でも、優先的に順位をつけながら新しい新規事業にも取り組んでいきたいというように考えているところでありますし、おおまかな方向としては、何か箱物をつくることよりは、何かソフト事業というのですけれども、福祉とか教育とか、そういったところのほうに重点的に予算として投じていきたいというように考えているところでありますので、またご理解をいただければというように思います。

その所信表明で出させていただいた柱としては以上の内容になりますが、僕、正直、今、38歳なのですよね。若さがあるから、しがらみにとらわれずにやれる強さはあるのですが、やはり人生経験で足りない部分というのは自分で承知していますし、そうした部分では、皆様方、多分ほとんど僕より年上の方が多くと思いますので、これまで培ってきたお知恵ですとか経験とかをお話しいただく中で、自分としてもしっかり聞く耳を持ちながら市政運営を一緒に行ってまいりたいと思いますので、今後ともご理解とご協力をいただければと思いますので、よろしく願いいたします。

以上です。

○細田秘書課長

ただいま市長からお話のありました市政運営に関してご質問などがある方は、後ほど設けます自由意見交換のお時間でご発言いただくことといたしまして、次に、佐久島地区から事前にご提出いただきましたご意見やご質問などについて、市から回答をさせていただきます。

ここからは、今回の懇談会で佐久島地区の代表者としてお力添えをいただいております、佐久島小校区の松本会長に進行をお願いいたします。本来ならば、市の主催という

ことで、市の職員が司会進行を務めるところではあると思いますが、この懇談会では、堅苦しくなく、活発な意見等をお出しいただけるよう、地区のことをよくご存知の町内会長様に進行役をお願いしております。

なお、本日の懇談会につきましては、着座のままご質問やご回答をさせていただきますので、ご承知ください。

それでは、松本会長、よろしく申し上げます。

○司会（松本会長）

それでは、よろしく申し上げます。佐久島町内会長の松本でございます。

皆様におかれましては、日ごろから町内会活動を始め、各分野でまちづくりにご尽力を賜り、また本日は懇談会へご参加いただきまして、誠にありがとうございます。

さて、本日は、市長を始め、市役所幹部の皆さんに直接声を届けることができるよい機会であります。限られた時間ではありますが、佐久島地区、さらには西尾市を住みよいまちにしていくために有意義な意見交換ができればと思っています。

それでは、指名を受けましたので、これから私が進行を務めさせていただきます。進行に協力をお願いいたします。

初めに、佐久島地区から事前にお伝えしていた意見や質問などに対して、市から回答をいただきます。限られた時間であります。効果的に懇談会を進めるために、あらかじめ4件の意見等を伝えてあります。これらについては、ご意見等を提出された方々に内容を読み上げていただきます。

なお、市からの回答に対しての再度のご意見やご質問は、全ての回答があった後にお聞きしますので、よろしくをお願いいたします。

それでは、1件目、西町内会役員の藤井さん、よろしく申し上げます。

○西町内会（藤井役員）

西町内会役員の藤井です。よろしくをお願いいたします。

1件目は、過疎化問題への対応についてでございます。

過疎化問題に対しては、これまで行政や町内会、島を美しくつくる会等がいろいろな取り組みや活動をしてきましたが、いま1つ人口の減少は食いとめられていません。IターンやUターンの人たちが少しずつ島に来てくれてはいますが、西町内会において、前年度は有権者が4人、世帯数が4軒も減少しています。この勢いで減少が続けば、小中学校の統廃合や行政サービスの低下、市役所の出張所、診療所及び分遣所の撤退、市営渡船の便数減少といった不安材料が山積します。

そして、これらが現実となれば、過疎化にますます拍車がかかり、生活に支障が出るのではないかと、住民として先行きに不安がいっぱいです。このような状況の中、行政はどのような点に力を入れて地域振興を行っていただけるのかお聞かせください。また、住民はどのような活動をすべきなのかお教えてください。よろしくをお願いいたします。

○司会（松本会長）

お願いします。

○中村市長

藤井さん、ご意見ありがとうございます。1件目の過疎化問題の対応について、お答えをさせていただきます。

佐久島の人口につきましては、平成22年度の国勢調査で271名だったのですが、それが5年後の平成27年度の国勢調査では234名となっております、5年間で37人が減少しております。また、65歳以上の高齢化率というのを見ますと、50.4%ということで、正直、今後も人口の減少が予想されているところであります。

市といたしまして、その定住の対策としてどうするかということになりますが、訪れてよし、住んでよしということで、まずは観光による誘客を図っているところであります。観光に来ていただく中で、島のよさ、美しさを感じていただいて、そのための方法といたしまして、現在の佐久島の振興策として、島を美しくつくる会の活動への補助をさせていただいたり、あとは「三河・佐久島アートプラン21」というものがあるのですが、それによるアート事業を実施したりですとか、海水浴場を始めとする観光施設の維持管理などを継続的に実施していくというのが現状であります。

その結果といたしまして、平成27年度から、島を訪れていただく観光客の方の数が10万人を超えている状況でありまして、引き続き交流人口の増加を図りながら、それに加えてと言うか、そこから一歩先の定住を図る取り組みを行っていきたいというように考えているところであります。

では、定住を促進するために何が課題となってくるかということになると思うのですが、やはり、その最たる例というのは仕事なのかなというように感じています。1つの方法といたしまして、今年度から遊休農地というところを活用して新たな島の特産品を開発するというところで、サツマイモ栽培を、島を美しくつくる会との協働という形で事業を進めさせていただいております。

また、それ以外の方法といたしましては、国に総務省という部署があるのですが、そこが進めています島で生活をしながら一定期間地域活動に従事して定住促進も図る「地域おこし協力隊」というメンバーがいるのですけれども、各地でそういった島おこしやまちおこしに実績を上げている協力隊の導入についても、今、検討しているところであります。その受け入れについて、佐久島住民の皆様にもご理解とご協力をいただきたいというように思います。その定住促進については、行政が一方的にできるわけではなくて、やはり島にいらっしゃる皆様のご意見などを踏まえながら一緒に取り組んでまいりたいと思いますので、よろしくお願いします。

以上です。

○司会（松本会長）

ありがとうございました。

2件目、観光の会会長の筒井さん、お願いします。

島を美しくつくる会会長の鈴木でございます。日ごろは、島を美しくつくる会に対してご指導やご支援をいただきまして、誠にありがとうございます。

また、これからもよろしく願います。

それでは、3件目、繁忙期における乗船客の配慮についてでございます。2つの団体から同様な意見が出ております。

1点目の意見として、観光の会の筒井会長がおっしゃいましたけれども、私たちの立場としまして、今、東西渡船場において、ゴールデンウィークやお盆、またシルバーウィーク、それから5月から10月までこれは激混みとなっております。大体1時間から1時間半ぐらい待たなければ乗れない状況となっております。お客様を乗船でかなり炎天下の中で並んで待たせるという状況に今なっております。とてもじゃないが、子どもさんには特に気の毒だと思っております。そこでですけれども、緊急処置として移動式テントとか違う施設など何かできたらいいかなと、今思っております。

佐久島にせっかく来て、何が思い出かといったら、暑い炎天下で1時間も待って、ようやく船に乗れたという思い出はちょっと寂しいかなと思っております。

2点目の意見として、観光客が年々増えており、これが市営渡船に乗れずに待ち時間が長くなってしまうと。その中で、やはり日中の炎天下の中、また雨の日もありますけれども、待合室が非常に狭いという、座る場もなく、やはりお客様が道路に座るといことが、今、通例となってしまっております。その中で、やはり漁業者の皆さんも荷物をおろせないとか、今、いろいろな問題が出てきましたので、その点も、また島民の皆さんとも話し合いながら、いい方向で検討していただきたいと思っております。

以上が3件目でございます。よろしく願います。

○司会（松本会長）

市長、お願いします。

○中村市長

鈴木さん、ありがとうございます。

3件目ですけれども、まとめた形で回答させていただきたいと思っております。

繁忙期における乗船客への配慮ということではありますが、ご指摘の移動式テントの設置につきましては、海風の影響を受ける中での安全性を考慮いたしますと、しっかりと固定が必要となります。ですが、佐久島の東西渡船場については、それぞれが漁港施設内にあるということで、場所を使用するには許可が必要となりまして、漁港内に漁港関連以外の工作物を設置する許可がなかなか難しいというのが現状であります。

しかし、そういったご意見をほかでもたくさん聞いておりますし、何とかしたいというようには思っておりますので、渡船利用者の整列方法ですとか、あとは取扱所の日差しの設置など、島の皆さんですとか漁業関係者の皆様方と協議検討しながら、どういう方向がいいかということは一緒に考えさせていただきたいと思っております。こうしたことを通じまして、渡船利用者の方ができる限り待ち時間が少なくなるような、効率的な船舶運航を心がけてまいりたいと思っておりますので、よろしく願います。

○司会（松本会長）

どうもありがとうございます。

次に、4件目、東町内会長の鈴木さんお願いします。

○東町内会（鈴木会長）

東町内会長の鈴木です。よろしくお願いいたします。

4件目は、島民の渡船利用についてでございますが、要望1が東町内会、要望2が婦人会の要望でございます。

要望1です。渡船は島民にとってインフラの一部であることから、観光客に影響されずに乗船できるようにしていただきたいと思っております。観光客が多いときには1時間以上待たされることがあり、手荷物が多いと観光客の視線が気になり、不愉快な気分になることがあります。椅子の確保までは望みませんが、手荷物等も含めて、定時に乗船できるようにお願いいたします。

次に、要望2です。近年、観光客が増加しています。このことから、渡船の便数を増やしていただきたいと思っております。

4件目は以上です。よろしくお願いいたします。

○司会（松本会長）

市長、お願いします。

○中村市長

鈴木さん、ありがとうございます。

4件目の島民の渡船の利用についてということで、1件目の要望についてでありますけれども、観光客の増加によって船の定員を超過してしまっていて、全てのお客様が、なかなか希望する時刻の船にお乗りいただくことができないという状況が生じております。このような中、全てのお客様に公平となるよう、並んでいただいた順に乗船していただいておりますので、希望する定期船がある場合には、早めに渡船場にお越しいただくことをお願いするしかないということでありましてというのが形式的な答えになるのですが、要は公共交通機関になるものですから、実際に観光客の方にとくさん来ていただく中で、佐久島の魅力を知っていただいているということ自体はいいのですが、それが結果として、島民の皆さんがなかなか希望する船に乗れないという状況が生じていることに対して、正直、非常に心苦しく思っているのです。

ただ、公共交通機関という性格上、なかなか島民の方だけの枠をとるのが難しいのですが、例えば高齢者について何か配慮はできないかというところは、今後、関係機関等で相談しながら、少しでも今の困難が解消できるような形ができないかというところは少し考えさせていただきたいと思っておりますので、ご了承いただければというように思います。

そして、2件目の要望についてでありますけれども、定時便を増やすことで、結果的に臨時便を増便しづらい状況をつくってしまうということが正直あります。ですので、

現状の輸送力においては、定時便に乗り切れない利用者がある場合に増便して対応するという現状の方法が、市としては観光客には効果的であると考えておりますので、ご理解いただきますよう、よろしくお願いいたします。

○司会（松本会長）

ありがとうございます。

それでは、5件目、婦人会の筒井さん、お願いします。

○婦人会（筒井さん）

婦人会の筒井でございます。よろしくお願いいたします。

5件目は、レンタサイクル利用者のマナーについてでございます。

最近、島内でのレンタサイクルの利用が増えており、島民の通行を邪魔するなど、利用者のマナーの悪さに困っています。利用者がしっかりとマナーを守り、道路を通行するよう標識を増やしてください。

5件目は以上です。よろしくお願いいたします。

○司会（松本会長）

市長、お願いします。

○中村市長

筒井さん、ありがとうございました。

5件目のレンタサイクル利用者のマナーについてということですが、まず道路標識につきましては、警察が設置するものになりますので、市として設置はできませんが、レンタサイクル利用者への啓発看板については、島内のレンタサイクル店と佐久島駐在、行政で組織しております自転車安全対策検討会というものがありますので、そちらのほうで設置に向けて検討するとともに、あとは佐久島の渡船から下船する方たちに対しまして、東と西の取扱所において、マナーに関する注意ですとか協力を依頼する放送を流すことで周知をしていきたいというように考えておりますので、よろしくお願いいたします。

なお、集落内につきましては、徒歩で散策してもらえるように駐輪場を設置して、佐久島体験マップの地図にも駐輪場の位置がわかるように記して、島からのお願いといたしまして、マナーを守って散策をしていただけるように注意喚起をしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○司会（松本会長）

ありがとうございました。

それでは、6件目、西三河漁協佐久島支部長の筒井さん、お願いします。

○西三河漁協佐久島支部（筒井理事）

佐久島出張所の理事をやっております、筒井です。よろしくお願いします。

6件目ですけれども、アサリが年々減少しております。減少している原因は、砂が移動するということで、その中に、やはりグリ石を入れてもらう。そうすると、砂が移動しにくくなるのではないか。その石を入れた結果、今、クモが現在一色のほうでも話題になっております。問題になっております。クモがなぜかというと、石の裏に小さなカニが入ります。そのカニが、クモの卵や、はぜたクモを食べます。これは付近の方が確認しておりますので、砂の件も付近の方が、砂が移動する、石が壊れる、だから貝が死ぬとそう言われておりますので、グリ石のほうをよろしくお願いします。

○司会（松本会長）

お願いします。

○中村市長

筒井さん、どうもありがとうございます。

6件目のアサリ漁場の整備についてということではありますが、アサリ漁場へのグリ石の投入を行う漁場整備につきましては、愛知県の補助事業に漁村活性化総合対策事業というものがあまして、その中で地先漁場生産力向上事業というものに当てはまるのですが、実際のところとしては、そういった県の事業に当てはまるので、補助が可能となります。

1つだけお気をつけいただきたいのが、佐久島は西三河漁協の管内になると思いますので、漁協に、毎年6月に市から翌年度の要望調査というものを行わせていただいております。漁協を通しての申請になりますので、その上で漁協を通してご要望いただければ、市としても県に通して、何とか補助事業として採択できるような形では考えていますので、よろしくお願いしますと思います。

○司会（松本会長）

ありがとうございました。

7件目も、佐久島支部長の筒井さん、お願いします。

○西三河漁協佐久島支部（筒井理事）

お願いします。

7件目は、東西の港のことですけれども、台風の時期、それから季節風が吹くようになると、波が高くなります。港内の出入りも困難という日もあります。台風の時期になると、防潮堤が低く、老朽化しておりますので、外にテトラポットを入れてもらうと、とても助かるのですけれども。渡船の出入りも楽になります。漁船も楽になります。台風時期で綱をとるときにも楽になります。テトラポットをよろしくお願いします。

○司会（松本会長）

市長、お願いします。

○中村市長

筒井さん、ありがとうございます。

7件目の佐久島港内の安全対策ということでありませけれども、佐久島漁港というのは、佐久島にとりまして唯一の交通機関の拠点でありまして、重要な施設であると市としても認識しているところであります。僕はまだ市長ではなかったですけれども、過去にも同様のご要望をいただいております、その際にもご回答を申し上げているところなのですが、佐久島の西港・東港の両方の港の沖の防波堤を含めまして、市としては平成27年度に漁港施設の機能保全計画というものを作成しております、この計画の中では、現況の施設の維持及び長寿命化というものを最優先に考えております、正直、施設の補強はなかなか状況が難しいというように考えています。

それで、テトラポットについても、実際に何とかならないかというところでいろいろ調べてみたのですが、なかなか予算が多額にかかってしまうということで、現状は増強が難しいということで、何とかご理解いただけないかというように思いますので、申しわけありませんけれども、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○司会（松本会長）

ありがとうございました。

それでは、最後になりますけれども、8件目の一色消防団佐久島分団長の新實さん、お願ひします。

○一色消防団佐久島分団（新實分団長）

一色消防団佐久島分団分団長の新實です。よろしくお願ひいたします。

8件目は、島の防災についてでございますが、4件あります。

1件目は、道路の拡幅についてです。JA西三河佐久島店から外浦海岸のある島の北側に抜ける道路は、軽自動車も通れないほどの道幅です。救急搬送や火災出動において迅速に対処するため、ぜひともこの道路の拡幅をお願ひいたします。

○中村市長

1件ずつお答えすればいいですか。

○司会（松本会長）

まとめてやっていただいてもいいです。

○一色消防団佐久島分団（新實分団長）

2件目は、放水管についてです。

観光施設の多い東地区では、道路幅が狭いため地下埋設の放水管は認知されにくく、埋設箇所に車や自転車等が置かれることもたびたび見受けられています。いざというときのため、また防災意識を高めるためにも、東地区の3か所の放水管を立ち上げ式に変

更してください。

3件目は、防火水槽についてです。

火災時の放水において、防火水槽内の水がなくなるまでの時間は大変短く、少しでも長く放水できるような設備として、島全島の防火水槽に給水栓を設置してください。

4件目は、消火栓についてです。東町内会の要望にもなります。

新設の消火栓は立ち上げ式をお願いしていますが、既設の消火栓も立ち上げ式にしてください。埋設の消火栓は雨水がたまりやすく、泥水が結合部に入り、傷ついたり、動かなくなったりします。消防団による定期点検で、水抜きや潤滑油での保護はしているものの、雨降りのたびに行うことはなかなかできないのが現状です。昨年度は、やはり抜けなくなって、30分以上かかって抜いた例もあります。こういうことがありますので、よろしく願いいたします。

○司会（松本会長）

市長、お願いします。

○中村市長

順番にお答えをさせていただきます。新實さん、ありがとうございました。

まず1件目のご要望でありますけれども、実際に現地のほうも確認させていただきまして、1.6メートルから1.8メートル幅で現在コンクリート舗装が施工されておりました、路肩の部分に段差のある箇所が見受けられました。カーブ部分もありまして、車両を安全に通行させるためには、もう少し幅員が必要な箇所があることも確認できました。という状況なのですが、実際のところ道路拡幅となりますと、境界を含めた用地測量を行いまして、場合によっては土地の寄附をお願いすることとなります。また、延長約400メートルに及ぶ道路改良を行うということになりますと、測量費ですとか工事費ということで、多額な費用がかかるというようにこちらとしては考えているところであります。

全体的な道路拡幅というものは現在考えていない状況ではあるのですが、現在ある道を利用して、軽自動車の通行が可能となるような部分的な、ここは舗装するとか、ここは拡幅などというところを地元町内会の皆様方と相談しながら柔軟に考えていきたいというように考えておりますので、よろしく願いいたします。

そして、2件目になります。2件目の要望でありますけれども、現在、島内に公設の消火栓というものが20か所あります。そのうち、地下埋設型の消火栓というのが6か所あります。ご意見にありました東地区には、現在5か所の地下式消火栓がありまして、団員の負担軽減や住民の防災意識を高めることは必要と考えておりますが、水道管の配置などから設置箇所は限られ、また、その場所において地上式を設置することは難しいというように考えております。

そのため、平成25年及び平成27年に、団員の方々の負担を軽減するために消火栓のふたの軽量化というものを行わせていただきました。その結果として、30キログラムぐらだったふたが、今は10キログラムぐらいという形になっている状況であります。

そして、今後についてであります。老朽化に伴う水道管の布設替え工事が計画、実

施される場合には、配管位置を考慮して、立ち上げ式の消火栓設置を検討していきたいというように考えております。

そして、ご指摘のありました消火栓のふたが認知されにくい件につきましては、ふたの周囲に黄色の目印をつけて、車両等を放置しないように注意喚起をしていきたいというように考えておりますので、ご理解をお願いいたします。

そして、3件目の要望であります、火災を消火するための水利の確保につきましては、基本的に火災現場に最も近い水利を選択して使用することになります。消火栓であれば継続して使用できますが、ご心配されるように、防火水槽を使用する場合には水量が限られていますので、そのまま使用するだけでは、いずれはなくなってしまいます。そのような場合は、まず防火水槽の水を最大限に使用して消火をしつつ、防火水槽の水がなくなる前に、近くにありますが消火栓等の水を使って消火ができる体制をとって、消火活動を継続します。

また、島内の水道の配管による水量も限られていますので、防火水槽に直接水を補ってしまいますと、消火栓からの放水の妨げとなる可能性もありますので、防火水槽に水を補うというやり方ではなくて、直接、火災の消火に使用したほうが有効であるというように考えております。わかりにくい部分については、また後ほどご質問していただいて、消防長のほうから説明させていただきますので、よろしくお願ひしたいと思います。

そして、4件目になりますが、先ほどお伝えした2件目の要望に対する回答と同様になります、立ち上げ式にすることは、現状では困難であることをご理解いただきたいと思います。

また、埋設の消火栓の管理につきましては、消防団員の皆様方と協力して、分遣所職員も定期的に点検を行い、消火栓の維持管理に努めてまいりたいと思っておりますので、ご理解いただきますようお願いいたします。

○司会（松本会長）

ありがとうございました。

佐久島地区から事前にお伝えした全ての意見や質問などに対しまして、ただいま回答がありました。

ここで、回答に対する質問などを受けたいと思っております。ご発言に当たっては、挙手をお願いします。私が指名させていただきますので、町内会名または所属団体名とお名前をおっしゃってから発言してください。

なお、限られた時間でありますので、要旨を簡潔にまとめ、ご発言いただきますようご協力をお願いいたします。

それでは、発言のある方は挙手をお願いしたいと思います。

○東町内会（ｽﾞｷ様）

東町内会のｽﾞｷです。

先ほどの渡船利用についてですが、観光業者とかそういうものは、ある程度の犠牲はやむを得ないと思うのですが、そうではないお年寄りで、1人で住んでみえる、2人で

住んでみえる、観光に関係のない方、それから漁業者の方たちからすると、やはり一色からこちらへ来る渡船の利用が1時間以上待たされたりすると、島民の足なのになぜ、この人たちのために待たなければいけないんだとか、いろいろそういう意見が耳に入ってきます。観光業者としては、ある程度やむを得ないと思うのですが、当然、そういう人ばかりではないです。なるべく優先的に乗れるように何とかしてもらえれば非常にありがたいですけれども、そういうことを言われると、やはり私たちも観光業者として肩身が狭い。せっかく人が入ってきてうれしいですけれども、反面そういったデメリットもありますので、ご検討いただければと思います。

難しいでしょうけれども、やはり観光客と一緒に待つというのは、島に観光客は来なくてもいいとか、先ほど言われた、自転車でごつかるし、何だこの人らはという意見もたびたび聞かれるようになってきましたので、何とぞご検討をお願いします。

○司会（松本会長）

お願いします。

○中村市長

お気持ちは十分わかっているつもりでありまして、ごもったもな部分もたくさんあるのかなと思います。今の段階でどこまで配慮ができるかというのはちょっとわからないのですが、公共交通機関ということで、別枠で島民用、観光客用というのは多分難しいのですが、ただ、関係機関と協議をしながら、実際にそうやってお困りでいらっしゃる島民の方々もいるので、どこまでできるかということは、協議をしながら皆様方のご意見を聞いて考えていきたいと思っています。

○東町内会（ｽﾞ様）

よろしくお願いします。

○司会（松本会長）

ありがとうございました。ほかに何かご意見がありましたら。

○東町内会（ツツ様）

東町内会のツツといいます。

今、お宮の総代をやっているのですがけれども、大分老朽化といいますか、神社の問題が出てきて、このままほうっておいて修理が遅くなればなるほど、どんどんお金がかかると思うのですね。そういう文化財に対しての補助というのか、どのようになっているのか教えてもらいたいです。できるものかどうか。

○司会（松本会長）

今までの8件の再質問を先に行います。

○東町内会（ツイ様）

それでは、市長にお願いします。

最初の方針で、まちづくりでも、少子高齢化等、いろいろありますが、市民との触れ合いといいますか、顔を見てのコミュニケーション、あるいは、島では観光客と住民との触れ合いとか、いろいろ方針がありましたけれども、具体的なプランはお持ちなのですか。

○中村市長

コミュニケーションのとり方の話ですか。

○東町内会（ツイ様）

はい。ただ言葉だけで。

○司会（松本会長）

話がわからない点があったと思うのですけれども、できれば答えていただければと、お願いします。

○中村市長

どこまで具体的かというところとあれですけども、できる限り僕自身としては、市のトップとしてたくさん現場に足を運ぶ中で、例えば挨拶をして終わりとかではなくて、せっかくその場に来たのだったら、そこにいらっしゃる方と、時間がある限りお話をさせていただきたいと思いますし、仕事としてのかかわり方はあるかもしれませんが、やはり人と人との中で、しっかり信頼関係を持ちながら本音で話せるような関係づくりはしてほしいというところは考えています。

○東町内会（ツイ様）

要は、我々がもっと考えなければいけないということですね。

○中村市長

まずは、こちらとしてもたくさん現場に行く中で、机の上だけでやるのではなくて、こういう機会をたくさんつくりながら、地域の方々がどういう考えなのかというのを把握する必要があると思いますし、自分だけではなくて、職員にも、現場に行って、仕事としての付き合いだけではなくて、やはり人と人との顔を合わせた話なので、そういったところでしっかり信頼関係を築きながら話ができるようにしてくださいというところは言っているところです。

○観光の会（ツイ様）

すみません。

○司会（松本会長）

観光の会のツイさん、お願いします。

○観光の会（ツイ様）

先ほどの質問で、町内会長をやられた方はわかると思うのですが、市と県の文化財に関しては補助があります。八劔神社の中の9つの神様とか、いろいろあるのですけれども、あそこまでは補助はきかないと。

○司会（松本会長）

すみません。それはわかるのですけれども、今までの8件に対しての再質問やご意見を言ってもらいたいということで、お願いします。

○一色消防団佐久島分団（ニノミ様）

それでは、いいですか。

○司会（松本会長）

消防団のニノミさん、どうぞ。

○一色消防団佐久島分団（ニノミ様）

先ほどの話ですと、今度、水道管をかえるときに直していただけるという話でしたけれども、四、五年ぐらい前だったと思うのですけれども、町内はほとんど本管がかわっているのですよね。自分ら消防団としては、そのとき一緒にやってもらえると思っていました。今ある消火栓は、おそらく自分が子どものときにあった消火栓ですから、最低でも40年以上経つわけですね。四、五年ぐらい前に、町内の本管は耐震化でかわっているわけですね。そうすると、今度かわるときというのは、おそらく四、五十年先だと思うのですよね。今あるものは、40年ぐらい経ってさびさびで、なおかつ今度も長く待つという、あと40年だから、80年ぐらいになるわけです。今でも正直、使っていてそのうち爆発しないかなというような器具なのですよ。見てもらったらわかると思うのですけれども、とにかくホースをつないだら、去年、30分外せなかったそういうものですから、それをまた、何年か先の工事するまで待てと言って、正直いつになるかわからない話をされるというのは無責任な回答だと思うのですけど。

正直言って消防団は、今、平均年齢が60歳を超えるぐらいですよ。そういう消火設備をよくしてくれないと。佐久島の消防団お願いしますと言われても、施設はやってくれないし、60過ぎの人が新入団員ですよ。今年2人入っているのが。再入団の人も、分団長をやっている人が60歳以上で、親子で入ってもらって、区長も入ってもらっている。それで40人確保できなくて、学校の先生にも入ってもらったりしていて、それで道具はやらない、それで消防団をお願いしますではね、ちょっと市長、無責任だよ。もっと親切にしてくれんと。

○司会（松本会長）

お願いします。

○太田消防長

消防長の太田と申します。よろしく申し上げます。

その件であります。水道を管理しております南知多町役場の水道課に連絡をとったところ、今後、老朽化に伴う布設替え工事については計画的に実施していくと言われております。

立ち上げ式にするには、こちらのほうの予算の関係がありますので、工事をする際は、向こうから連絡が来るようになっておりますので、そのときは立ち上げ式のほうを検討していきますので、今すぐにはできませんけれども、よろしくお願ひいたします。

○一色消防団佐久島分団（ニイミ様）

全部はできなくても、1年に1つずつでもいいので、早急にやってもらいたいです。

○司会（松本会長）

ありがとうございます。ほかに何か、お願いします。

○西三河漁協佐久島支部（ツイさん）

組合のツイです。

先ほど市長から、佐久島は西三河組合だから本部から頼めと言われましたが、それならば、ここへ来て発言する意味がなくなると思います。漁師も高齢化で平均年齢が上がっています。それで一番大事な砂場のアサリがなくなってくる。それで本部から申し込めと言われれば僕ら憤慨です。それでは、話し合いをする価値がないと思います。その返答をお願いします。

○司会（松本会長）

ありがとうございます。お願いします。

○金原産業部長

産業部長の金原と申します。

アサリにつきましては、ウミグモの件もありますし、今おっしゃられた、稚貝が波で流されてしまうというような話で、西尾の重要な産業でありながら、資源がなくなっているというのは、大変、私どもも憂慮しているところでございます。

この事業は、なかなか市単独ということでは予算的に厳しいものがあるものですから、私どもとしても、極力、国、県の予算を使いながら、アサリの資源が回復できるように努力してまいりたいというように思っています。

そこで、その事業に何があるかというのを確認しましたところ、先ほど市長が申しました漁村活性化総合対策事業という補助金もございますので、ただ、それが、例えば個

人や町内会、そういう単位では受けつけていただけないものですから、漁業協同組合が申請団体になると。それで、受け付けのほうは市を経由して県などに申請するということです。その辺のご理解をお願いしたいと思います。直接ではなくて、漁業協同組合を通じてお願いしたいというように思っておりますので、よろしくお願いします。

○西三河漁協佐久島支部（ツイさん）

これからは、そういう言葉は町内会へ言ってもらって、組合には、そういう大事なことは本部から申し込めということをお願いいたします。

○司会（松本会長）

ありがとうございます。ほかに何かありましたら。

なければ、ここからは自由意見交換の時間として進めていきたいと思っております。時間は一応、午後4時15分までということにさせていただきます。

皆様には、先ほどの地区とりまとめの意見、質問などにかかわらず、まちづくりに対する提案や意見、その他、地域の困り事、関心事がございましたら、ご発言いただきたいと思っております。

また、市長からお話がありました市政運営に関する質問などがございましたら、ご発言ください。

先ほどと同じように、ご発言に当たり、挙手をお願いいたします。私が指名させていただきますので、町内会名とお名前をおっしゃってください。

なお、より多くの方に発言いただけるように、要旨を簡潔にまとめてご意見いただきますよう、ご協力をお願いいたします。

それでは、発言のある方は挙手でお願いしたいと思います。

○東町内会（ツイ様）

先ほどの話ですけれども、これについては、特にありませんか。

○司会（松本会長）

先ほどの話を、もう一度初めから言っていただけますか。

○東町内会（ツイ様）

要するに、補助ですよ。

○山崎地域振興部次長

今日は関係の部長・次長がまいっておりませんので、所管ではございませんが、以前に文化財の担当をやっていましたので、私から分かる範囲でお答えいたします。

先ほど観光の会のツイさんが、文化財関係は詳しいのでおっしゃっていただきましたが、島の中にあるその神社の中でも、県、市指定のものに分かれております。先ほど建物が古くなったというお話だと思いますので、県の有形文化財に指定されていれば、これは

計画的に申請を上げていかなければいけませんけれども、現在では制度はあるというように思っております。

ただ、私も以前に文化財の担当をやっていた知識で、何もお答えせずに「ご意見は持ち帰りします」では失礼だと思ひまして、今、知っている範囲の中でお答えさせていただきます。多分、それで現在も行われていると思います。詳しくは担当課に、また島の中でも文化財に関係している方がいらっしゃると思いますので、その方を通じてお願いをされれば確認できると思います。

○東町内会（ツツイ様）

もう1つ、厚かましいお願いです。

渡船の島民優先の乗船などという話もありましたけれども、今度は料金のほうですね。それとあわせて、一色の駐車場の料金に対しての補助というか、値下げというか、もう一段考えられませんかでしょうか。

○司会（松本会長）

お願いします。

○内藤佐久島振興課長

まず渡船料金につきましては、以前もいろいろお聞きはしておりますが、公共交通機関ということで、島民の料金につきましては、一般の料金よりも島民の料金は減額をさせていただいております。その金額の設定は、公共バスの距離とあわせて、ほぼその距離と同じぐらいということで、現在の金額に設定させていただいております。

もう1つの一色漁港にあります駐車料金であります。これは、その周辺で駐車場を営んでいる方たち等の金額をもとに、現在のガレージと屋外の金額を設定しておりますので、ご理解いただきますようお願いいたします。

○東町内会（ツツイ様）

それは、前の振興課長のときも同じような回答なのですよね。要するに今、1,000円に下げていただいて、ほかの公共の船舶関係、あるいは駐車場にしても、市場の価格と対比して決めていらっしゃるようですが、離島の振興ということで考えていただけないかということなのですね。我々がお願いするのは、特別な計らいができないかということなのです。全然それは考えられないということですね。

○内藤佐久島振興課長

離島の振興ということで、先ほどの回答と重複するかもしれませんが、渡船料金は抑えさせていただいております。

○東町内会（ツツイ様）

具体的に、今までの経過はわかりますか。最初は1,600円だったかな。800円で、往復

1,600円。それが1,240円ぐらいになったのですか。それで、何年か前に1,000円ぐらいになっていますよね。それが全部、公共の料金と対比して、これが妥当だということで設定してもらっているわけですよ。1,000円になる前は、1,240円だったかな。これを1,000円に決めたというのは、どういう経緯ですか。

○内藤佐久島振興課長

私が佐久島振興課長になるときに前任者から聞いておりますのは、1,240円、多分その辺は消費税の絡みなどで増減があったかと思うのですけれども、渡船事業の一環として、島民の方たちには少しでも料金をとということで、一色の港から佐久島まで来る距離を西尾駅からのバスで距離計算をすると、総合体育館、市民病院あたりまでの距離と佐久島までの距離が同じになるので、公共交通機関の観点から、その距離でバス料金が500円程度でありましたので、では、その距離に合わせて佐久島の渡船代も、島民の方につきましては片道500円という設定をとということをお聞きしております。

○東町内会（ツイ様）

1,240円の時も、そういう回答でしたね。1,000円に下げたのも、バスが500円だから1,000円にしますということなのですか。

○内藤佐久島振興課長

はい。そのようにお聞きしております。

○東町内会（ツイ様）

それ以上の佐久島住民に対する援助というか、支援は考えていないわけですね。私が質問するのは、それを考えてもらえないかということなのです。同じ答えばかりいつも聞いているのですけれども、公共のバスだとかなんとか。

○内藤佐久島振興課長

公共交通でありますので、利用者の負担という形は、どうしてもお願いしていきたい。

ただ、交通料金の渡船以外の部分で、佐久島振興において市がやっておりますいろいろな事業で、どうにかして島民の方たちが少しでもいい方向に向き合えるような形で貢献をさせていただきたいと思っております。

○東町内会（ツイ様）

例えば。

○内藤佐久島振興課長

例えば、今やっております島を美しくつくる会の活動への助成、あと三河・佐久島アートプラン21で、今年は、JA西三河のご協力のもと、クラインガルテンの農地を使って、今、サツマイモの栽培をやっております。これが、これから先、すぐに結果を生む

とは思っておりませんが、島のお年寄りの方たちにも、そのような形でサツマイモづくりなどにご協賛いただいて、また1つのお土産物になって、島民の方たちに還元できるような形になっていければと思っております。

○東町内会（ツイ様）

なかなかいい回答で、ありがとうございます。

○司会（松本会長）

観光の会のツイさん、先ほど何か言いかけたと思うのですけれども、もしよかったら。

○観光の会（ツイ様）

文化財の件は、先ほど山崎さんにご回答いただきましたので。

○司会（松本会長）

ありがとうございます。ミヤさん、お願いします。

○町内会（ミヤ様）

先ほどの神社の件の補足です。私、前文化財保護委員でしたので。

現在、補助はあります。これは文化振興課が当たっていますが、来年度、阿弥陀寺の如意輪観音坐像も県の指定文化財になっていまして、この修復をすることになっていきます。修復費は、今、この帳面に書いてありますので、詳しいパーセントは計算しないと出ないですが、現実には、修復費は県のほうからおおむね5割強ぐらい補助が出ます。その残金に対して、市のほうは5割弱ぐらい、四十数%ですが、補助が出ます。

最終的には、その残高が出てきます。残高は、自分の側で負担しなければならない。これは、補助金としてこれだけ出るけれども、やはり全く持ち出しなしではできないというのが原則になっていまして、阿弥陀寺の檀家のほうでも一応それは相談して、何とか捻出して修復をしようではないかということになりまして、今、申請をして段取りができています。

ですから、今後、文化財に関しては、県の指定、市の指定、いずれの場合も何らかの形で補助は出ますけれども、やはり順番待ちということはありません。今回も、今年度やりたかったのですが、佐久島の場合は次年度に持ち越しと。やはり西尾市でも、ほかにたくさんある文化財が、どこもかしこも何らかの修復をしたいということになりますので、やはり順番待ちで佐久島の修復が来年度になっています。そのような状況です。

○司会（松本会長）

ありがとうございます。ほかに何か。ニイミさん、お願いします。

○一色消防団佐久島分団（ニイミ様）

すみません。市長、貧酸素という言葉をご存知でしょうか。

○中村市長

聞いたことはあります。

○一色消防団佐久島分団（ニイミ様）

今、三河湾では、夏場になると温度が違ってきて、下のほうが冷たくて、上が暖かくて、それが混ざらなくて、貧酸素といって、下のほうの水の酸素がなくなってしまうわけですね。それを、毎年6月から10月まで水産試験場が調査してくれる。三河湾がどういう状態か、インターネットで見られるのですけれども、それが蒲郡のラグーナのあたりから始まって、夏の終わりぐらいになると佐久島の沖まで来て、2年ぐらい前に島の周りのタイラ貝が全滅したりとか、アサリが死んだり、ウニが死んだり、苦潮が起きたり、最近はその非常にひどくなっております。

前にテレビで見たのですけれども、大阪湾に関しては、ピラミッド型の三角錐をつくって、穴があいていて、天井に穴があいているでしょう、したみずが入ってくると、そこから上に水が抜ける。それによって、下の酸素のない水が上昇気流をつくって上下が攪拌されるというのをやっておりました。もちろん西尾市だけで、それができるとは思っておりません。近隣の市町村や県に対して、そういった貧酸素の問題をもう少し何とか改善してもらえようような努力をしてもらえないでしょうか。

○司会（松本会長）

お願いします。

○中村市長

僕はその辺の知識が余りないものですから、今いただいたご意見も踏まえて、県の水産試験場などと何ができるかというところ、対策を打たないといけないというところを共有して、その方法論として、そういったことも踏まえながら考えさせていただきたいと思います。

○司会（松本会長）

ありがとうございます。ほかに何かありましたら。意見がなければ、これで自由意見交換を終わりたいと思います。

少し時間がありますので、市から何かお知らせがありますか。お願いします。

○金原産業部長

今、皆様のお手元に産業物産フェア、それと西尾の抹茶の日のイベントのチラシを置かせていただいております。西尾市と西尾商工会議所、そして一色町商工会、それから西尾みなみ商工会と共同で西尾の物産展を文化会館でやりますので、お時間の都合のつく方は、ぜひお越しいただきたいと思います。よろしく申し上げます。

○司会（松本会長）

どうもありがとうございます。

進行にご協力いただきまして、ありがとうございます。

それでは、事務局にお返しいたしますので、よろしく申し上げます。

○細田秘書課長

松本会長、どうもありがとうございました。

それでは、閉会に当たりまして、市長がお礼のご挨拶を申し上げます。

○中村市長

皆さん、今日はどうもありがとうございました。

自分自身、市長になる前は議員を4年間やっていましたし、その前も含めてずっと西尾市民で、佐久島には、プライベートも含めて年四、五回は来る機会があるのですけれども、正直、まだ自分が知らないことがたくさんあったという反省も、今、感じているところでもあります。

この佐久島をどうするかというところは、観光の面からも大事ですし、人口減少対策という面でも大事であります。市としては、佐久島振興課がその部署になるわけですが、自分自身もまた、今日だけではなくて、島にも足を運ばせていただく中で、またいろいろとお話を聞かせていただきたいと思いますし、島で僕の姿をもし見かけることがありましたら、気軽に話しかけていただいても結構ですので、また皆様方と力を合わせて、佐久島のことについても頑張ってみようと思っておりますので、よろしくお話ししたいと思います。今日は、どうもありがとうございました。

○細田秘書課長

それでは、最後に、事務局から3点ご連絡いたします。

まず1点目、本日、アンケート用紙をお配りしております。今後の事務の参考とさせていただきますので、アンケートにご協力いただきまして、お帰りの際、アンケート用紙と筆記用具をこちらの出口の回収箱にお入れいただきますよう、お願いいたします。

2点目ですけれども、市では、皆様の声を市政運営に反映させるため「市民の声」の制度を設けております。市政に対してお気づきの点などがありましたら、市民の声までご意見等をお寄せください。

最後、3点目でございます。市では、さまざまな機会を通じて市民協働ガイドを行っております。これは、市職員が地域に出向き、市の事業などをわかりやすい言葉でお話しさせていただくとともに、地域の声をお聞きするものでございます。詳しくは、お配りしております案内チラシをご覧ください、会合等の際には、ぜひご利用ください。

連絡事項は以上でございます。

それでは、これもちまして「市長と語る市政懇談会」佐久島地区を閉会いたします。お気をつけてお帰りください。どうもありがとうございました。